

中央アルプス全山縦走報告

2010年8月30日(水) - 9月3日(金)

M4 只左一也

8月30日：高尾→(JR)→伊那市(仮眠)

8月31日：伊那市→(タクシー)→桂木場→木曾駒ヶ岳

9月1日：木曾駒ヶ岳→宝剣岳→空木岳→摺鉢窪避難小屋

9月2日：避難小屋→南駒ヶ岳→越百山→安平路山→安平路避難小屋

9月3日：避難小屋→摺古木山→登山口→(車道)→幸助バス停→(バス)→南木曾駅→(JR)→高尾

4日目 (9月3日(金))

起床	03:30
安平路避難小屋	05:25 発
白ピソ山	05:55 着/発
摺古木山	06:40 着 07:00 発
自然休憩舎 (林道)	07:50 着 08:00 発
大平高原 (車道)	09:40 着/発
木曾峠(大平峠) (車道)	10:40 着 10:50 発
幸助バス停 (バス)	12:25 着 13:16 発
南木曾駅 (JR 中央本線 塩尻経由)	13:50 着 14:52 発
高尾駅	20:30 着
(歩行時間：約 6 時間 30 分)	

この日は、なだらかな樹林帯の道を登山口まで3時間ほど歩き、林道と車道を歩いてバス停に下りるだけなので、気楽だった。少し寝坊して、5時半出発。雲は多いが、南アルプスの稜線ははっきり見える。露で下草の笹が濡れているのは分かっていたが、整備されている道だからと、雨具を着ずに出発。少し進んで、失敗だったことがわかった。安平路山から小屋までの道よりも、笹が茂って登山道に覆いかぶさっているので、少し進んだだけでかなり濡れてしまった。3時間だけだからと、横着して雨着をつけずにさらに進んだら、びしょびしょになって下着まで濡れてしまい、良くないことに服を伝って靴の中まで濡れてしまった。

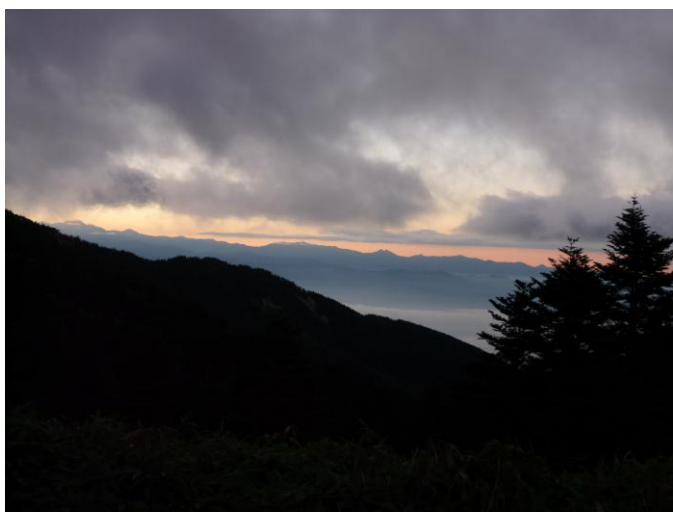
シラビソの美林の中を進み、その名も白ピソ山のピークを過ぎ、ちょっとした登りを越えると、中央アルプスの最南端、摺古木山の山頂に到着。雲に覆われて展望はなかったが、稜線から下るのが名残惜しく、しばらく山頂でゆっくりしていると、北西方面の雲が消えて、御嶽山や、これまで歩いて来た中央アルプスの稜線が姿を現した。これには感激だった。

もっとゆっくりしたかったが、バスの時間もあるので、20 分ほど休憩してから下ることに。南が開けていて眺めはいいが、残念ながら恵那山だけは雲に覆われている。途中で、クマ除けの鈴をいくつかぶら下げた単独行の年配の男性とすれ違った。前日、越百山から南駒ヶ岳まで縦走しようとしたが、体調が悪かったので越百山ピストンだけにして、この日はもっと楽そうな安平路山を往復することにしたそうである。

山頂から1時間もしないうちに、登山口の避難小屋(自然休憩舎)に到着した。



美しいシラビソの林



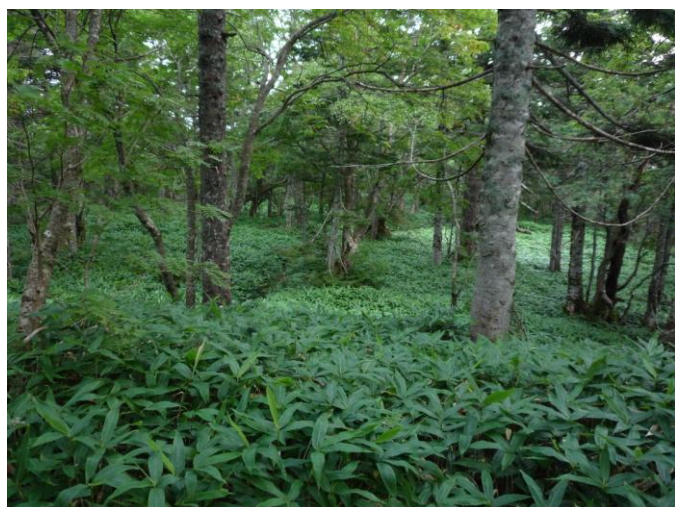
この朝は雲が多かった。遠くは南アルプス南部の山々。左端は聖岳、中央は光岳。



白ビソ山頂上(2265m)

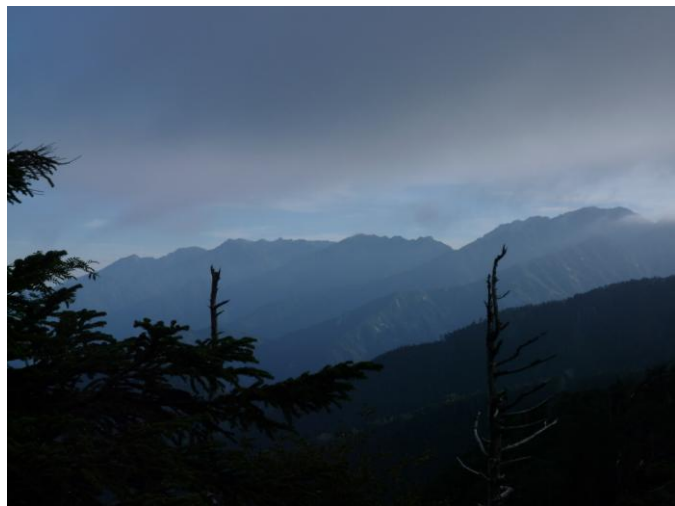


一晩お世話になった安平路避難小屋。向こうの山は安平路山。





摺古木山頂上(2169m)



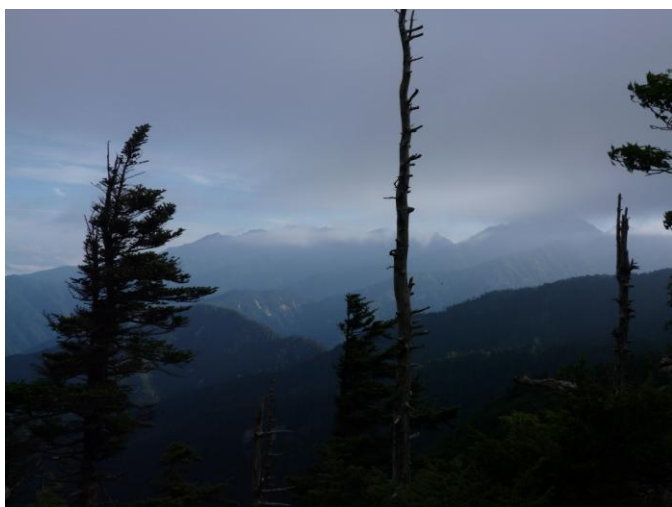
右が空木岳、中央やや左に宝剣岳が見える。



山頂から西の眺め。左は御嶽山。



摺古木山から下る途中、南の眺め。恵那山は雲の中(右)。



北も雲が消えて、ずっと歩いて来た中央アルプスの稜線が姿を現し始めた。



登山口に立つ避難小屋(自然休憩舎)

ここからは林道になるが、私の登山靴は底が硬くて、林道を歩くと足の裏を痛めるので、持ってきた足首の浅い靴に履き替える。小屋の先で、旨い水が湧き出しているの、ペットボトル3本をいっぱいにして出発。谷沿いの林道を黙々と下って行くと、1時間半で大平高原の県道に出た。2時間半のつもりだったので、快調である。しかし、ここからバスのある南木曽の集落まで行くのに、大平峠(木曾峠)を越えなければいけない。重い荷物を背負って、炎天下、登り坂の車道歩きはなかなか辛いものがあった。何台もの車とすれ違ったが、どの車もすれ違う前にスピードを落として「???」という顔でじろじろ見ていく。全山縦走する人たちは、みなタクシーで下ってしまうのであろう。しかし貧乏学生の私は、できる限り公共機関だけに頼るという主義だし(往きは仕方なくタクシーを使ったが…)、南アルプスの例の40km弱の寸又川林道を経験してからは、10キロほどの道程度なら苦もなく歩く自信はあったが、この日はだめだった。大平峠を過ぎたあたりから脚が痛くなり出し、急にペースダウン。曲がりくねった道を下っていると、車で登ってきた高齢者夫婦に「この先、上に見どころはあるか?」と聞かれたので、特別なものはないと教えてあげたら、なぜか機嫌が悪くなったようで、「じゃあ、引き返します」と、少し先でUターンして戻ってきた。私には目もくれず下って行ってしまった。「もしかしたらバス停まで乗せてくれるかな…」などという淡い期待はもろくも打ち砕かれ(そんな期待を勝手にする方がずうずうしいのだが、飯豊、袈裟丸など、あちこちで通りがかりの車に乗せて頂いたので、ついつい期待してしまった)、ますます気持も沈んで、脚を引きずるようにして坂道を下り続ける。ときどき、恵那山が見えるのが慰めだった。

峠から1時間半ほど車道を下り、バス停のある南木曽町広瀬の集落に到着。「幸助」バス停の周囲には日陰が全くなかったため、少し離れた木陰を見つけ、道路に座り込んでバスを待つ。すると、通りかかった近所のおばあちゃんが話しかけてきた。1時過ぎ、定刻通りにバスが来て、乗り込む。途中下車して温泉にでも入って行こうかと思ったが、バスに乗ったら降りるのが面倒になってしまい、終点の南木曽駅まで行って、銭湯でも探すことにした。

しかし、駅に着いて駅員さんに尋ねたら、駅近くには銭湯も温泉もないとのことだった。仕方なく、トイレで汗を拭いて着替え、家までそれで我慢することにした。

駅前の土産物屋で買い物をしたら、その店の主人が山キチらしく、私の縦走の話聞いて大喜び。しばらく山の話で盛り上がった。目の前の南木曽岳は南から登ると険しくて、冬は雪中を「泳ぐように」ラッセルして登らないといけないそうだが、長野県警の山岳警備隊とも東邦航空の幹部とも仲がいいので、いつでも救助にヘリを出してもらえるから真冬と一緒に登らないかと、すごいお誘いを受けてしまった。

中央本線の電車に乗り込み、塩尻駅で新宿方面の電車に乗り換えた。電車に揺られながら、この縦走のことを思い出していると、どんどん充実感がわいてきた。私の山行の中でも、2008年の南アルプス縦走や、今年5月の至仏山～越後駒ヶ岳残雪期縦走に匹敵するような、大変印象深い縦走となったような気がした。



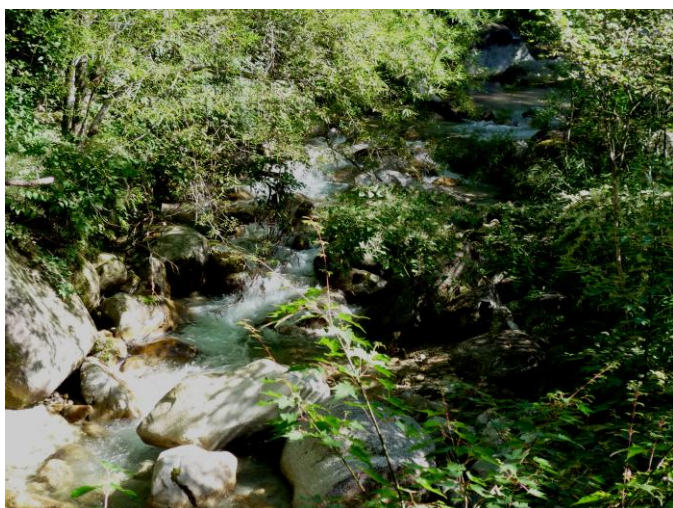
登山口近くの水場。岩の割れ目から豊富な水が湧き出ている。この水も冷たくて旨い。



登山口からは林道を下る



ここは明治時代に集団移住してできた山村だが、すっかり寂れてしまった。



林道の横をきれいな川が流れている



大平高原から木曾峠まで車道の登りになる



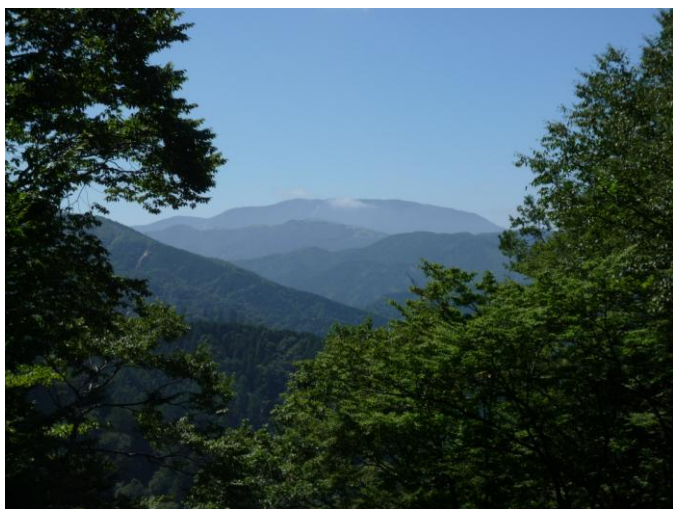
登山口から 1 時間半で、大平高原に出た



1 時間で木曾峠（大平峠）に到着



木曾峠のトンネル。トンネルの手前は伊那、向こうは木曾。



脚が痛くなってきてだらだら歩いていたが、ときどき恵那山の眺めの良いところがあり、慰められる。



炎天下、登山口から林道と車道を延々4 時間、ようやく目的地のバス停に到着。日陰に座り込んでバスを待った。



南木曾町広瀬集落の国道に出た



バスに乗って、中央本線の南木曽駅に着いた。ここから鈍行を乗り継いで、東京に戻った。